

機関報告

～カレル大学哲学部東アジア研究所日本研究学科～

報告者：三上 京子

- 1) 沿革 1947年 哲学部東アジア研究所日本専攻開設
1991年 国際交流基金日本語教育専門家派遣開始
2005年 Japanologie から Japonská studia に変更
2005年 学士課程の授業開始
2005年 10月入学の1年生から、5年で修士号取得ではなく3年で学士号取得、さらに2年で修士号取得のシステムに変更される。
2008年 修士課程の授業開始
- 2) 現地教授スタッフ内訳
教員：常勤6名（うち邦人1名＝国際交流基金派遣専門家）、非常勤2名
- 3) 履修者の詳細
 - ❖ 受講学生専攻科別内訳
日本研究学科：学士課程1年生18名、2年生18名、3年生17名（うち3名が日本留学中）、
修士課程1年生9名（うち2名が留学中）、2年生6名（うち1名が留学中）、
博士課程8名、ほか留年また休学中数名
 - ❖ 日本語学習の主な動機
 - ・日本の伝統文化に対する興味、武道など日本の伝統的なスポーツへの関心
 - ・日本の文学、歴史、芸術等に対する関心
 - ・マンガやアニメなど日本のサブカルチャーへの関心
 - ・日本語そのものに対する興味、「めずらしい言語」としての日本語の魅力
 - ・仕事で使用する、日系企業への就職等将来の仕事につなげたい
 - ・パートナーが日本人である、日本人の知人・友人がいる
 - ❖ 卒業後の就職状況
日本語教員、翻訳者、通訳、観光ガイド、また一般日系企業に就職する者も多い。また、既に仕事を持っていて仕事をしながら日本研究学科で学ぶ者も少なくない。
 - ❖ 卒業時の平均的な日本語レベル
学生によって（日本留学経験の有無やその期間によって）かなり差があるが、日本語能力試験2級～1級程度であると考えられる。

❖ 日本留学の協定校等

東京外国語大学、筑波大学、金沢大学、早稲田大学、同志社大学、お茶の水女子大学（哲学部の交流協定）、神戸大学、聖心女子大学（約3か月間の短期）

4) カリキュラム [() 内の数字は週あたりのコマ数：1 コマは 90 分]

<1 年生>

会話(1)、文法(1)、聴解(1)、漢字入門(1)、漢字(1)、読解(1)、日本の歴史(2)

<2 年生>

会話(1)、文法(1)、聴解(1)、漢字(1)、読解(1)、日本語学(1)、日本社会(2)

<3 年生>

文法(1)、日本語演習(1)、翻訳ゼミ(1)、古典入門(1)、日本文学(2)

<修士1 年生>

会話(1)、作文(1)、日本語論(1)、言語学演習(1)、日本語史(1)、日本史演習(2)

<修士2 年生>

会話(1)、専門テキスト読解(1)、日本文学演習(2)、美学(1)、日本思想ゼミ(2)

<全学年対象の選択科目>

日本の漫画(1)、日本文学(1)

<修士生対象の選択科目>

変体仮名(1)